

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700091		
法人名	平和ヘルスケア株式会社		
事業所名	平和の里 グループホームこほく		
所在地	千葉県我孫子市中峠2964-1		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成25年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢によって自立した生活が困難になられた利用者様に、家庭的な環境のもとで食事や入浴、排泄等の日常生活や季節行事、アクティビティを行う事により安心・充実した生活を送れるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平成19年8月の開設であるが、この1月に隣接地に1ユニット増設して2ユニットのホームとして、併設小規模多機能ホームとも連携して運営している。全館平屋建ての明るく清潔なホームである。スプリンクラーの設置・全館に対応できる大型パッケージ型消火装置・ユニット間を遮断する防火扉の設置等、2ユニット目建設時に、防災設備面でも一層の充実をはかり万全を期している。管理者及び職員は運営理念の「平和の里 宣言」の実践に取り組んでおり、利用者や家族とのコミュニケーションも良く、アンケートでの評価も高い。ホーム設立5年が経過するが「地域住民の健康体力づくり教室」に施設を提供し交流を図るなど、地域との連携にも積極的に取り組んでおり、徐々に成果を上げつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「平和の里宣言」を玄関に掲示し、いつでも確認できるようにしている。	「利用者を家族の一員として迎え、良質の環境をつくり、価値観や生活習慣を尊重し、24時間いつでも朗らかに生活できるよう努める」旨の5つの「平和の里宣言」は玄関に掲示され全職員が確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	第2・4水曜日に地域の方を招き、健康体力づくり教室を開催し、交流を図っている。また毎月ボランティアも取り入れている。	市の介護予防事業とも連携し、月2回事業所内の広い共通スペースを地域住民の健康体力づくり教室に開放する等、積極的に地域との交流に努めている。また、地域の様々なボランティアも受け入れ交流を図っている。	これ迄の取り組みが相乗的に発展し、地域との連携がさらに強まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽に相談できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の活動報告や利用状況等を説明し、意見交換などを行いサービス向上に努めている。また職員・家族合同で消防署に協力してもらい一般救命講習会を行った。	2ヶ月に1回の開催を定期化し昨年に比べ回数も増加した。家族や地域関係者の意見・要望も報告しサービスの向上に活かしている。消防署の指導・協力のもと救命救急講習を運営推進会議と同時開催する等の工夫も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室に関しては直ぐに連絡を行っている。また運営推進会議や体操教室などにも市担当者に参加してもらい現状を確認してもらっている。	日常運営における報告事項や事業の課題・成果の情報等は速やかに報告している。運営推進会議、体操教室に市介護支援課や介護相談員の参加を得るなどして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修の基礎・専門・実践課程は全て修了し、内部研修にて職員へ反映させている。安全上の問題で、正面玄関のみ施錠を行っている。	今のところ特に拘束の必要な利用者はいない。身体拘束廃止についての研修は管理者がすべての課程の受講を修了し、職員会議時に内部研修を行い全職員の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等でも身体的虐待の他、言葉や行動の虐待にも気をつけるよう話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の相談等はないが、研修に参加し制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に十分説明している。不安や疑問などには随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見等は、その都度確認したり介護相談員から情報を引き出してもらったりして、運営会議や家族等に発信している。	日常のコミュニケーションを大切にしており利用者や家族の要望、意見は積極的に聞いている。介護相談員経由で確認する事もある。職員会議で話し合い施設運営に活かしている。運営推進会議や家族へも報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて、職員との意見交換などで運営に役立っている。	毎月の職員会議は事業所の運営やサービスの提供について、それぞれの担当者が中心になって意見交換を行っている。毎年1回全職員に対して個人面接を行い、非常勤職員の声も受け止めるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与、技能手当の他、各職員と接し意見要望など個々に話合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議等で外部研修の報告会や内部研修を行い、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所分科会会合に参加し、運営状況や問題点などの話し合いを行っている他、介護支援専門員協議会なども参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の言動から不安要素が無いか注意し、少しでも不安要素が汲み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での生活をわかりやすく説明し、家族の要望や不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の把握を行い、ご本人、ご家族の必要とするサービスを受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と密なコミュニケーションを図るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不安や疑問などを取り除き、信頼関係を築き上げるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前情報や家族等の意見等を確認しながら、気軽に立ち寄って頂けるように努めている。	親類や知人への年賀状の支援や、夜間でも家族の訪問を受け入れている。初詣や花見、夕涼みなどを各月の行事に取り入れ、慣れ親しんだ季節の行事にたずさわってもらえるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や相性などの把握を行い、楽しく過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、相談して頂けるよう説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族等から意向を取り入れている。意思表示が難しい場合などは、会話や行動などから希望や意向の把握に努めている。	入居前に本人・家族から思いや希望を聞いている。それらの事前情報と毎日の会話や行動などから意向の把握に努めている。意向表出が困難な場合は、仕草や行動・家族から聞くなどして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族等から情報を収集し、ケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録等でご本人の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別記録をもとに各職員やご本人・ご家族等から意見等を取り入れ、介護計画を作成している。	毎日の個別記録や担当医師や関係者等の意見を基に毎月カンファレンスを行い、本人・家族の希望等を反映させた現状に即した介護計画を作成している。家族アンケートでも、全員から介護計画の説明および話し合いがあるとの回答を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個々への記録記入を行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じたサービス提供を出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要機関との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力病院を説明しているが、ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医を受診されている。	協力病院医師の来診、歯科医、マッサージ師等の訪問があり、希望により受診している。入居前からのかかりつけ医受診の方も多く、家族が対応している。緊急時には協力病院のバックアップ体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化でも報告しており、ノートなどで申し送りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に面会をし、情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない為、事前に家族等と話し合い他施設などの紹介を行っている。	現在のところ、看取りまでは行っていない。重度化等の場合は本人・家族と話し合い、他施設の紹介をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を備え、定期的に訓練を行い問題点や改善点等を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を行い、色々な改善点が見られた。定期的に訓練を行い不安要素を取り除いていきたい。地域との協力体制も築けていない為、協力が得られるよう努めていく。	総合訓練や消防署指導の救急救命訓練等を行った。25年1月開設の新館ともにスプリンクラーは全設置の他、防火ドアや大型パッケージ型消火装置も設置した。夜間の災害発生に備えた近隣住民の協力を得られるよう努力している。	引き続き近隣の住民との協力関係づくりなどを含め、災害時の対応につき検討を進めていただきました。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法に基づき対応している。 声かけも尊厳などを傷付けないよう対応している。	個々の人格を尊重した対応に努めている。 名前も本人が希望される呼びかけをしている。 トイレや入浴時にもプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを大切にし、声かけや会話を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理美容があり、希望を聞き実施している。 また誕生日などで外出する際には事前に家族と話し合い、当日の服装などを準備して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と一緒に食べている。 また、準備・片づけ等も個々に合わせおこなっている。	昼食は広い居間で皆で一緒に食べ、出来る方は下膳や食後の歯磨きも積極的に行っている。 月1回の楽しみな料理クラブ活動では、職員と一緒に昼食やおやつを手作りしている。 また咀嚼や嚥下を確認し個々に合わせた食態で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量の把握を行い、個別記録に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。必要な方には、毎週月曜日に訪問歯科がある為受診し、先生より注意点や問題箇所を確認してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、可能な限り日中はトイレでの排泄を心掛けている。	夜間おむつやパッド使用でも、立位の出来る方は排泄パターンに合わせて、日中はなるべくトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝・夕の体操を行い、体を動かすよう努めている。同時に食事量や水分量の確認をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は強制せず、本人の意思を尊重している。	週2回を基本としている。併設の小規模施設の大浴場での入浴を好まれる方も多い。入居年数も長くなり全介助入浴の方も増えており、その時は2人体制で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の生活パターンに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬などの作用を入れ、閲覧出来るようにしている。また、内服確認表を作成し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	基本的には季節行事で行っているが、天候に合わせて近隣公園の散歩や買い物など行っている。	天気の良い日は外気浴を兼ねて近くを散歩している。途中、野の花を摘んだり楽しみながら歩いている。季節行事では、初詣や花見などなるべく戸外に出かけられる配慮がされている。また月2～3回は楽しみな買い物ツアーにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2～3回程度、買い物ツアーなど行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望にそって対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分などには季節ごとに作った作品を飾ったり、外出した際などの写真などを掲示している。	玄関や居間等には、多くの作品が飾られている。居間をはじめ全室採光良く音や温度にも配慮されている。幅広なウッドデッキは日光浴や夕涼みなど憩いの場になっている。利便性に配慮した二方面ドアのトイレも設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天候が良ければウッドデッキに出て歌を歌ったり、ソファーにてテレビ鑑賞やお部屋で過ごされたり自由に過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持物の制限はない為、馴染みの物や愛着のある物などを持ってきて頂いている。	筆筒や小物など入居前からの馴染みのものを持ち込み、壁には写真や作品を飾ったりして、思い思いに配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力に応じ、支援している。		